

## GPIFの実力と現状 (資産形成コラム)

### ～会社員・公務員のリスク～

2023年1月の日本は円安・インフレ・金利上昇・増税計画等々、これからどうなるのか～！！？？と不安にならなくもないですが、どれもこれも一小市民の私にはどうすることも出来ないことであることは明白ですし、恐らく皆さんも同じ感覚だと思います。また、1989年のバブル崩壊以降の企業の倒産ほどではないですが、2020年の年明けから続くコロナ禍では多くの企業が倒産したのも事実です。そういう意味でも今の日本を含め世界はリスクだらけですし、自分の勤めている会社や職だけは絶対に安泰だという確実な将来は恐らく無いと言わざるを得ない現状だと思います。もしも自分の会社だけは大丈夫、ましてや自分だけはリストラに合わないと思っているなら、それこそがリスク以上のデンジャーであることは間違いないと個人的に実感しています。

しかし今回のコラムはそれとは別で会社員・公務員が既に抱えている大きな、大～きなリスクについて、少し詳しく説明していこうと思います。知っていれば、マスコミの煽り？のような報道で得体のしれない不安をただただ抱えることは無くなると思います。私自身も自覚していないと、自

然と不安になるような情報を信じやすく、一部の情報や情報の断片のみで判断してしまい、後悔するような言動をしてしまうことがあります。それが今回のコラムの主題、また資産形成にも大きく関わってきますので、引き続き読み進めていただければ幸いです。

**会**社員・公務員の皆さんは厚生年金に加入されていると思います。自営業の方は国民年金ですが、抱えているリスクは同じだと思ってください。そう、厚生年金つまり公的年金こそがまさにリスクなのです。と言っても、将来厚生年金が無くなってしまって、現役世代の方や特に若い世代の方は老後年金なんて破綻して「全くの払い損ですよ〜！！」と言ったような、いわゆる不安を煽るようなことをお伝えしたい訳ではありません。その点で言えば、全くの逆です。将来の厚生年金（公的年金）は十分ではないかも知れませんが、日本の公的年金は現時点でとても強固な財務基盤を維持しています。その事実と根拠を詳しくお伝えさせていただき、現役時代の正しい資産形成や豊かな老後のための資産形成・運用の一助になればと思います。

皆さんは**G P I F**という言葉聞いたことありますか？直ぐにピンときた方は経済通ですね。G P I Fとは、Government・政府 Pension・年

金 Investment・投資 Fund・基金 = (※厚生労働省所管の年金積立金管理運用独立行政法人) つまり、皆さんが毎月拠出している年金保険料と厳密に言うと国の税金の一部を責任を持って運用している組織です。そう、投資・運用しているのです。このことを私は良い意味で会社員・公務員の方はリスクを抱えていると言っているのです。しかも、大きな大～きなりスクと言っているのは、その運用資金がなんと 192 兆 968 億円 (2022 年度第 2 四半期末現在)。とてつもなく大きな運用原資で、2001 年からの運用収益額は累積プラス 99 兆 9567 億円になります。運用先は株式と債券の割合 50%ずつ、国内と海外の割合 50%ずつ、約 50 兆円 (25%) ずつをそれぞれ国内株式・国内債券・外国株式・外国債券に分散してかつ長期で運用しています。以前のコラムでもご紹介したように、リスクとは悪いモノではないですし、日常的に私たちが抱えているものです。リスク = 悪と言う認識をまずは無くすことがとっても大切です。日常の例を 2 つほど挙げておくと、1 つ目は、信号機のある横断歩道を青信号で渡ること、これはまさにリスクです。赤信号で渡ると当然車に轢かれてしまうので、通常そのような危険は冒さないと思いますが、青信号で渡っていても運悪く事故にあうリスクがあり、常日頃多くの事故が発生しています。2 つ目は、季節外れですが夏の風物詩・海水浴に行く時です。さっきの赤信号と

同様、遊泳禁止の場所で泳いだりは普通しないはずですが、何故なら、とっても危険だからです。通常、遊泳が認められている海の家なんかがあり、ライフセイバーの方が巡回しているような場所で海水浴を楽しむと思います。でも、これもかなりのリスクですよ。毎年、多くの水難事故が発生しているのは周知の事実です。繰り返しになりますが、リスクは日常のいたる所にあり、私たちはそのリスクと上手く付き合っているということです。そういった意味でも、リスクを過剰に怖がったり、避けようとしたりせず、リスクの中身を正しく理解することこそが大切なことです。そして、大きなリスクを抱えている公的年金について『十分ではないけれど健全』とお伝えした強固な財務基盤について詳しく解説し、安心して日常を過ごしていただければと思います。

**GPIF** の実力と現状をお伝えします。公的年金の毎年の収支と年度末の積立金残高について、2016年度～2020年度の5年分を記します。2016年度・収入（53.5兆円）支出（51.7兆円）年度末積立金残高（185.8兆円）、2017年度・入（52.7兆円）出（52.4兆円）残（198.1兆円）、2018年度・入（52.8兆円）出（53.0兆円）残（200.7兆円）、2019年度・入（52.9兆円）出（53.4兆円）残（190.5兆円）、2020年度・入（52.5兆

円) 出 (53.6 兆円) 残 (233.8 兆円)。毎年約 50 兆円強の収入に対して、同額の 50 兆円程度の支出があります。収入に関しては、我々が毎月支払っている厚生年金保険料や国民年金保険料から約 40 兆、国の国庫支出金いわゆる税金からの約 12 兆円が大まかな内訳です。支出は現在主に高齢者が 2 ヶ月に 1 回、偶数月の 15 日に支給されている年金の総額になります。(主に高齢者と書いたのは、遺族年金受給者や障害年金受給者も含まれているからです。) 年度末残高については、年度の単純な差し引きだけではなく、先程お伝えした運用成果も含んだ結果になります。つまり、国庫負担が 20%程ありますが、基本収支のバランスが取れている状態です。

また、積立残高を見ると基本毎年増えています。これこそが G P I F の実力で、国際的に見ても世界一余裕のある強固な年金財政と言えます。毎年の支出のおよそ 5 年分にあたる残高を常に維持し、かつ運用により殖やしています。他国との比較として、アメリカは 3 年分、イギリスは 2 ヶ月分、フランスはほぼ無し、ドイツは 1.6 ヶ月分です。分かりやすく家計で例えると、毎年 500 万円の収入がある家庭で支出もほぼ同額の 500 万円、預金を含む金融資産が 2300 万円程度ある状態です。あまり心配ないと言いか、とっても余裕がありますよね。しかし、何と言っても日本の抱える大きな問題は少子高齢化、これによりさすがの公的年金財政もどんどん積

立残高を食い潰してあっという間に破綻してしまうと警鐘を鳴らす専門家は多いと思います。これについてもある程度は解決に向けて進んでいると言う、客観的なデータはあるのでまた何かの機会にお伝えしますね。

と言うことで、少し長くなってしまいましたが、日本の公的年金は盤石と言うことが1点、ただし十分ではないのでリスクを恐れず自助努力で資産形成を行っていくことが重要で、かつ皆さんが毎月毎月支出している公的年金保険料は世界最大級のリスクを抱えながら、順調に運用しているという事実を正しく理解していただければと思います。世の中には不安を煽る情報は多いですが、皆さんには安心して現役時代はもちろん、豊かな老後・人生を歩んでいてもらいたいです。私も共に歩んでいきますので、いつでもご相談ください。

ソニー生命保険(株) 大分支社

〒 870-0029 大分市高砂町 2-50

オアシスひろば 21 9階

TEL 097-532-9200

ライフプランナー 山田新悟